

八木 3 丁目（溪流番号 I -1-9-306） 現地調査報告

1. 派遣依頼元
 - ・ 中国地方整備局、広島県
2. 派遣の目的
 - ・ 警戒避難体制及び応急対策等の二次災害防止についての助言
3. 調査日
 - ・ 平成 26 年 8 月 20 日（水）16 時 30 分から 18 時
（災害発生日：平成 26 年 8 月 20 日）
4. 調査場所
 - ・ 広島県広島市安佐南区八木 3 丁目、溪流番号 I -1-9-306
 - ・ 被災した住宅地から溪流沿いに 350m ほど上流まで調査した
 - ・ 上流部は確認できていない
5. 調査者
 - ・ 国土技術政策総合研究所土砂災害研究部 蒲原潤一砂防研究室長、松下一樹土砂災害研究室主任研究官、大知寿徳中国地方整備局河川計画課調査第二係長（併任）砂防研究室
6. 調査概要
 - ・ 住宅地の勾配は 10 度程度、住宅地から上の斜面は 15 度程度。住宅が密集した中で急こう配な斜面上で速度を減ずることなる土石流が氾濫し被害を大きくしたものと考えられる
 - ・ 地形としては崖錐上の地形で、住宅より上の溪流の堆積状況は、拳大から人頭大の角張った礫が顕著に多い。地質図と照らし合わせると、下流部は花崗岩、上流部は泥岩、細粒砂岩で構成されており、土石流には泥岩等が含まれている可能性があり、詳細な調査が必要である。明瞭な谷地形が無く、流路の痕跡から堆積と再流動を繰り返しながら岩屑を多く含む土石流が流下した状況が想定される。
 - ・ 土石流は堆積と流動を繰り返し、ところどころマウンド状の堆積や逆に数 m の浸食が認められる。堆積しきれなかった部分が住宅に流下している。また、一部は北

側方向に流下しかけて溪流内で停止している。住宅地内は泥水の細粒分が多いが、まれに巨礫（1m 前後）や所々に人頭大の礫や流木を含む。

- 溪流右岸側の樹木群に石礫から成る堆積物が立木を残して堆積している場所が認められる。
- 谷筋周辺の林地の斜面上には表面流が流下した痕跡が認められる。
- 明瞭な谷地形ではなく、はっきりとした流路がない。また、現在住宅地に流末が確保されていない。表面に堆積している泥が少しの雨でも泥水として流出する可能性がある。
- ただし、現時点で溪流に流れている水が極端に濁っているような状況では無く、上流部で土砂が供給され続けている状況では無いと思われる。
- また、堆積している土砂は角張って密に堆積しているため、少しの雨で再度災害が発生するような感じは受けない。
- 現地調査の範囲で、小規模な天然ダムがあるなど差し迫った二次災害の危険性があるとまでは見えなかった。しかしながら、上流部を確認できていないので、今後の警戒避難に注意が必要

【調査写真】



写真1 溪流部状況（大量の岩層の流出と堆積）



写真2 溪流の濁りの状況と流路部浸食状況



写真3 根茎を残し表層土の流出した地盤と後続流等によると思われる浸食状況



写真4 流木の堆積状況（手前）及び林地内の表面流発生の際の痕跡（その奥）



写真5 立木を残して石礫が堆積している状況



写真6 溪流出口の宅地被災状況



写真7 建物の被災状況



写真8 建物の被災状況



写真9 道路上の流水状況